

市史編さんだより

2010. 1. 5

〒229-0021

相模原市高根 3-1-19

電話 042-750-8025

FAX 042-750-8039

発行 相模原市総務局総務課市史編さん室

ホームページ: <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

E-MAIL: shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

今年 3 月発行

市史『民俗編』

現在、校正作業中

今回はこの市史『民俗編』の中の「暮らしの写真帖」と題するコラム記事について紹介します。

この「暮らしの写真帖」は、昔の暮らしの中の光景・事象を写した写真について、全体的な解説のほか、写真に写る事柄に番号を振り、個々に解説を加えていきます。例えば、右の写真は昭和 27 年頃撮影された上溝祭りの人形山車の写真ですが、この写真に①「山車」 明治 40 年に八王子市横山町から譲り受けた山車、②「天照大神の人形」 天照大神が鏡を掲げている人形、というように①から⑫までの事柄を解説し、読み解いていくものです。



(市立博物館蔵 故今井清氏寄贈写真より作成)

このようなコラム記事を 28 点掲載します。刊行に向けて着々と進む市史『民俗編』、どうぞ期待下さい。

∞∞∞ 「自然編」「現代資料編」「現代図録編」等 販売書店 ∞∞∞

紀伊国屋書店相模原店(相模大野) ブックスアミ南口店(相模大野) 柴胡書房(文京) 相模書房本店(相模台)
渡辺書店(相模台) 相模書房女子美術大学店(麻溝台) 久保田書店(千代田) 中村書店淵野辺本町店(淵野辺本町)
中村書店ダイエー店(上溝) 中村書店本店(横山) 三基書房(田名) 中村書店田名店(田名) 中村書店橋本店(西橋本)
有隣堂ミウイ橋本店(橋本) カクダイ書店(二本松) 山本書店(津久井町中野) 敏正堂(相模湖町与瀬)

昔の市政に関する座談会

座談会出席者 鈴木 實 氏 (元相模原市助役)
宮崎 一雄 氏 (元相模原市収入役)
後藤 孝 氏 (元相模原市助役)
進 行 石井 篁 市史編集委員

昔の市政に関する座談会が石井市史編集委員の呼びかけにより、相模原市の三役を経験者された3人の元相模原市職員に集まっていたいただき、ご自身がかつて携わっていた事業などについて語っていただきました。第1回目は9月19日に開催され、今回はその内容の一部をご紹介します。



座談会風景

工場誘致条例 (昭和30年制定) もともと相模原には造兵廠の関係で技術者が



大山工業団地の脇を走る相模線 (昭和42年)

たくさんいたが、朝鮮特需後の不景気でこの技術者も多くが解雇された。また、市民の失業者が増え、京浜地帯まで仕事を探すのは大変だから、何とか地元で仕事を作らないといけないという思いが強かったことが条例制定の背景にあった。

市民会館 (昭和40年建設) と **市庁舎** (昭和44年建設) の建設費用は六市競輪の売上だった。

この他、歴代の市長の政治手腕、昭和50年の相模原市財政白書 (いわゆる「こども急増びんぼう白書」)、第1回市民さくら祭り、下水道整備、区画整理、横浜線複線化推進など内容的にとっても幅広いものでした。現場で携わっていた立場からのお話で大変興味深く聞くことができました。

この座談会には近現代部会の部会員1人が同席し、熱心にメモを取って聞き入っていました。座談会終了後、市史『現代通史編』の執筆のための資料として、今後聞き取りを行いたい内容をまとめていました。

次号では、第2回目の様子をご紹介します。

大野北出張所の建設 (昭和23年) 大野北地区には当時、現在の大野中出張所しかなく、人口が増加した矢部の住民が、物資の配給の手続きのために、現在の大野中出張所まで行くのは大変と、「出張



大野北出張所 (昭和52年)

京を感じさせる寺院 —常福寺—

市史『文化遺産編』の社寺文化財調査のため新戸にある常福寺を訪ねました。かながわ



の名木 100 選に選定されている‘しばの木’の大樹がランドマークとなる寺院です。

1791 年(寛政 3 年)に建造されたと言い伝えられている本堂の重厚さに歳月の流れを感じる寺院ですが、その他にも境内には、苔を敷き詰めた庭園や竹林、^{ひわだぶき} 桧皮葺の山門などが配されていて洗練された京の寺院を感じさせる趣があります。なかでも、13 年前に造園したという京都から取り寄せた

石と苔、敷砂利だけで構成された中庭は落ち着きのある素晴らしいものでした。

今回の事前調査では、彫刻類では、享保年間に製作した銘のある地蔵菩薩立像を、また、絵画類では、十六善神図や山水図などたくさんの作品が残されていることを確認することができましたが、詳細は、予備調査で明らかになることでしょう。

土塁が語りかけるもの —現況図を作成—

南北朝時代から室町時代にかけて築かれた土塁の痕跡が上矢部と磯部に残っています。平成 23 年度刊行予定の市史『考古編』に収録するため、昨年 12 月から 3 月にかけて中世遺跡の調査として、二つの土塁の現況図を作成しています。

土塁とは、城、寺、豪族の住居や集落などの周囲に築かれた連続した土盛りのことで、土を盛り上げて築いたとりでのことです。

航空測量と現地測量の方法により現況図を作成しますが、どのような形で土塁が残されているのかは市史『考古編』をお待ち下さい。



編さん室の動き 11月・12月

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|--------------------------|
| 11/4 日 | 社寺事前調査 (相原・二本松・大島) | 2 日 | 社寺事前調査 (田名・大島) |
| 7 日 | 近現代部会 | 4 日 | 中世遺跡現況図作成現地打合せ |
| 8 日 | 資料調査 (国立国会図書館) | 8・9 日 | 有鹿遺跡資料調査 |
| 18 日 | 社寺事前調査 (上矢部・清新) | 10 日 | 民俗編編集打合せ (國學院大學) |
| 21 日 | 第 2 回石造物・景観調査リーダー打合せ会 | 11 日 | 歴史的公文書の引継ぎ (相模湖・藤野総合事務所) |
| 26 日 | 神史協講演会 (県立公文書館) | 16 日 | 社寺事前調査 (田名) |
| 12/1 日 | 文化遺産部会 | | |

近現代部会の開催 ～平成 22 年度刊行に向けて～

近現代部会が 11 月 7 日に開催されました。今回の部会では、市史『現代通史編』の記述と時代が重なる、平成 21 年度版中学校社会科読本『私たちの相模原』第 8 章以降の、戦後の相模原の記述内容についての報告がなされました。

また、執筆に活用できればという主旨で、「昔の市政に関する座談会」（2 ページに関連記事）についての報告も行われ、関心が示されました。

このほか、平成 25 年度刊行予定の市史『現代テーマ編』で、各部会員が執筆構想を描いているテーマについて報告がなされました。



第 15 回文化遺産部会 を開催

—市史講演会のお知らせ—

「日本歴史の中の相模原 津久井地域 2」

- ・平成 22 年 3 月 27 日（土）午後 2 時～4 時
- ・相模原市立博物館大会議室
- ・受講料は無料 200 名（当日先着順）

*詳しくは次号で

平成 26 年度の市史『文化遺産編』の刊行に向けて、12 月 1 日（火）文化遺産部会を開催しました。議題は、①寺院事前調査の報告について②寺院予備調査の進め方について③近現代文化遺産の捉え方について④石造物調査の中間報告についてで、事務局から報告、並びに説明提案し、各部会員により意見交換がされました。

この部会を境に調査は次のステップへと進みます。

石造物・景観調査リーダー会議報告 11 月 21 日（土）開催

いよいよ調査の終盤を迎えて、今年度実施の 12 公民館区のチームリーダーが集まり、お互いの進捗状況や課題などについて、情報交換や今後の作業の確認等をしました。

各地区の石造物調査はほぼ終了し、写真の取り直しや調査票の点検、まとめに入っており、今年度調査された石造物の合計は、約 1,700 件になるようです。

景観調査では、メンバーで分担して石造物調査と平行して写真撮影をしているところや、ここで撮影に入ったところという地区もありましたが、ほぼ同様であり、それぞれ順調に運んでいると思われました。

寒くなりました。体に気をつけてもう一頑張り、よろしくお願いします。

